



平成29年2月3日

各 位

上場会社名 ダイナパック株式会社  
 代表者 代表取締役社長 杉山 喜久雄  
 (コード番号 3947)  
 問合せ先責任者 執行役員経営企画本部長 草野 雅夫  
 (TEL 052-971-2651)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

平成28年11月2日に公表しました平成28年12月期(平成28年1月1日～平成28年12月31日)の業績予想を下記のとおり修正しますのでお知らせいたします。

記

### ● 業績予想の修正について

平成28年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成28年1月1日～平成28年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	46,300	900	1,200	1,300	26.32
今回修正予想(B)	46,500	1,010	1,430	1,140	23.08
増減額(B-A)	200	110	230	△160	
増減率(%)	0.4	12.2	19.2	△12.3	
(ご参考)前期実績 (平成27年12月期)	46,320	634	891	701	14.20

平成28年12月期通期個別業績予想数値の修正(平成28年1月1日～平成28年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	34,500	300	700	1,000	20.24
今回修正予想(B)	34,300	470	810	1,050	21.26
増減額(B-A)	△200	170	110	50	
増減率(%)	△0.6	56.7	15.7	5.0	
(ご参考)前期実績 (平成27年12月期)	34,488	119	357	91	1.85

修正の理由

(平成28年12月期通期の連結業績予想)

売上高につきましては、主に為替の影響により予想を上回ったものであります。

営業利益につきましては、個別決算において、生産面では歩留まりや生産性向上など工場運営の合理化に加え、原燃料価格の低下も寄与したため予想を上回ったものであります。

経常利益につきましては、営業利益の増加要因に加え、年度末の為替水準が円安に振れたことをうけ、外貨建て資産・負債の為替換算時に行差益を計上したこと等により増加したものであります。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、経常利益の増加要因があった一方で、本日付で公表しておりますとおり、連結子会社の業績の悪化を受け、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、連結子会社の事業用資産に対して将来の回収可能性を検討した結果、回収可能価額が帳簿価額を下回ったことから、減損損失(特別損失)を351百万円計上し、当初予想を下回ったものであります。

(平成28年12月期通期の個別業績予想)

売上高につきましては、予想を若干下回っておりますが、概ね予想通りの水準で推移しております。

営業利益につきましては、生産面では歩留まりや生産性向上など工場運営の合理化に加え、原燃料価格の低下も寄与したため予想を上回ったものであります。

経常利益につきましては、営業利益の増加要因により増加したものであります。

当期純利益につきましては、経常利益までの収益増加が増加要因にある一方で、減少要因として、本日付で公表しておりますとおり、連結子会社において固定資産の減損に係る会計基準を適用し減損損失を計上した結果、純資産が毀損し、当社が保有する株式の実質価額が帳簿価額から著しく下落したため、株式価値の回復可能性を検討した結果、当面の回復は難しいと評価し、関係会社株式評価損(特別損失)を126百万円計上したものであります。

ご注意:本資料に記載しております業績に関する予想数値は、いずれも本資料の発表日現在において入手可能な情報による判断および仮定に基づくものであり、実際の業績は当該予想と異なる場合があります。

以上